

…一人の派遣交流から
学校全体の交流への発展…

Ⅲ 課題設定の経緯

学習指導要領の総則第4に示されたいわゆる「課題設定三要件」を十分考慮するとともに、下記により課題設定を行った。

1 教師のアンケート調査（複数解答可）

- 環境（9名） ・福祉・健康（7名）
- 国際理解（5名）
- 地域社会や学校の特色を生かした課題（5名）
- 他教科と融合可能な課題（2名）
- 人権（1名）
- 情報（0名）
- 本校の生徒の興味・関心を生かした課題（0名）

2 本年度が会津若松市市制100周年にあたること

本年度は市制100周年の節目の年にあたり、市で様々な催し物が開催される。そこで、この機会を捉えて、生徒に郷土理解を深める学習を行わせたい。

3 会津若松市と中国の荊州市が友好関係にあること

会津若松市と中国の荊州市が友好都市の関係にあり、毎年本校より1名の生徒が荊州市に派遣され、中高生と交流を行っている。しかし、一人の生徒のみの交流に留まり、学校全体での交流が図られていない。従って、これからは、本校生全体に積極的に国際交流を図ることのできる資質・能力を育成していくことが大切と考えて「総合的な学習」を位置づけた。

4 教科の枠を超える

私たち教師自身が、各教科の枠を超えた「総合的な学習」の指導者（支援者）であるという

自覚を持つことが必要である。まず、生徒が取り組みやすく興味・関心を持つ課題を設定することは当然であるが、私たち教師も援助しやすい「得意なこと、好きなこと」、生徒との市一中ふれあいの中で「これなら生徒と一緒にできそうだ」という課題を、生徒とともに設定し、追究していくことこそ重要であると考えた。

Ⅳ 研究計画及び授業実践計画

学期	月	主な研究の流れ	
		研究推進委員会	プロジェクトチーム、授業実践
一学期	4	・研究の全体計画・研究内容 ・研究組織の検討、提案、修正 ・指導計画、支援案の形式検討 ・学習方法、指導体制、指導形態の検討 ・特別時間割の作成	・学習方法、指導体制、指導形態の検討 ・指導計画、支援案の検討・作成 研究授業の実践 （郷土理解Ⅰ、Ⅱ）
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
二学期	10	・郷土Ⅰ、Ⅱについての研究のまとめと研究の修正 ・学習方法、指導体制、指導形態の検討	・郷土Ⅰ、Ⅱについての研究のまとめと研究の修正 ・学習方法、指導体制、指導形態の検討
	11	・特別時間割の作成	・指導計画、支援案の検討・作成 研究授業の実践 （国際理解Ⅰ、Ⅱ）
	12		
三学期	1	・国際Ⅰ、Ⅱについての研究のまとめ ・研究の成果と今後の課題の抽出	・国際Ⅰ、Ⅱについての研究のまとめ ・研究の成果と今後の課題の抽出
	2	・次年度の研究計画の作成	
	3	・次年度の教育課程の編成	

Ⅴ 学年共通課題「国際理解Ⅱ」の授業実践

1 題材名 你好我門的朋友

「ニーハオ！ウォメンダポンヨウ！」

荊州市の中学校との姉妹校締結に向けて

2 題材の目標

- (1) 【内容知】 日本と中国の間の文化の違いや過去及び現在の関係などを知り、これからの国際人として行動していく必要性があることに気づく。
- (2) 【方法知】 中国の同世代の中学生との